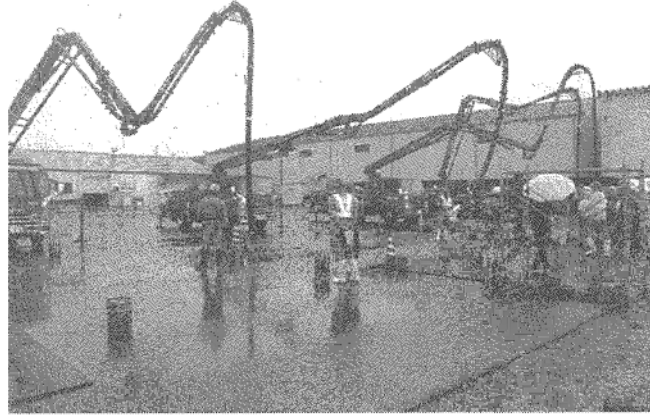


ヤマコン ゲーム感覚で圧送作業 技能五輪

ヤマコン（山形市、佐藤隆彦社長）は5月13日、ヤマコン技能五輪を開いた。同グループの支店・営業所単位でチームを組み、配管やブーム操作で技能を競う。2014年以降の開催で、当日はあいにくの雨模様だったが、グループ社員・家族らに加え、今回は福島県の圧送業者・金堀重機も参加。約170名が日常業務の成果を披露した。



正確なブーム操作が求められる



現実性がカギとなる配管接続



佐藤社長

後は、審判の指示で5分以内に現状復帰させる。また、服装や資格証（免許証や特別教育修了書など）の携行の有無もチェックする。新人の部は2人1組、主にはベテランが参加し

復帰させる。新人の定義は入職後、3年以内の社員。通常の現場と異なり、足場が良いため配管を複数本抱えて走る選手もいた。また、支店長・営業所長の連合チーム（4人）も特別参加した。熟練だが体力、スピード面では若手に分があり、配管作業で苦慮する様子がギャラリの笑いを誘った。

配管の部は大型運転免許保持者が対象で、新人の部は2人1組、主にはベテランが参加し



ポンプ車と配管を接続。運転技術も欠かせない

実機で日常業務確認 営業所ごとに技能競う

競技はブームの部「新人の部」「配管の部」の3部門で行われ、同社グループの11支店・営業所と金堀重機の社員が参加した。ブームの部は、始業点検から、ランダムに設置されたペール缶5

個の内部に、ブームの先端に装着したドッキングホースの白線部が隠れる状態の操作までを競う。競技時間は25分で、25分以内に完了した場合は1〜5位のチームにボーナス点が加算される。作業終了後、審査の指示により10分で現状に



今回は金堀重機、前回同様に山形県送技能士会の有志が参加するなど、近年は同業他社も声をかけている。今回も埼玉技能士会の早水久司会長や岩手県の平和圧送の関係者が訪れ、競技に熱い視線を送った。

を従来の現場同様、車両を運転して結合させた。また、実技だけでなく同社グループ社員の参加者は学科試験を受けた。学科試験は各競技に合致した内容や生コンの基礎知識、社訓など会社の基礎知識に関する内容が出題された。ベトナム人の技能実習生用に、試験問題は日本語とベトナム語の2言語を選択できるようにした。今回は山形県送技能士会の有志が参加するなど、近年は同業他社も声をかけている。今回も埼玉技能士会の早水久司会長や岩手県の平和圧送の関係者が訪れ、競技に熱い視線を送った。